

VII 野外活動や災害後の泥水・がれき等 撤去作業に関連する感染症の対策

1 注意を要する感染症

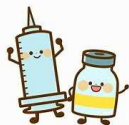
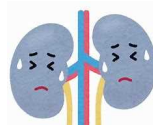
破傷風、レジオネラ症、レプトスピラ症

蚊媒介感染症（日本脳炎など）、ダニ媒介感染症（つつが虫病など）



2 主な症状と対策

【水害や泥流や土壌・がれき等の撤去作業に関連する感染症】

感 染 症	破傷風	レジオネラ症	レプトスピラ症
概 要	◆ 土壌中に広く常在している破傷風菌による感染症で、傷口等から体内に侵入することで感染する ◆ 予防接種による予防効果が大きい感染症であり、1968年に定期接種に含まれるようになった ◆ 定期接種対象外の年代の場合、免疫が十分でないことがある 	◆ 土壌や河川・湖沼及び池などの淡水中に生息しているレジオネラ属菌による感染症であり、人工水環境（循環式浴槽水、冷却塔水等）からの感染もある ◆ レジオネラ属菌を含むエアロゾル（霧状の水）を吸入することで感染し、ヒトからヒトへの感染はない ◆ レジオネラ属菌は、熱に弱く、70℃以上で1分以内に死滅する	◆ 病原性レプトスピラ感染による人獣共通の細菌（スピロヘータ）感染症 ◆ 保菌動物の尿への直接的な接触や、尿に汚染された土壌や水からの間接的な接触により感染し、国内では河川でのレジャーに関連した報告が多い ◆ 汚染された水や食物を口にするによる感染事例の報告もある 
症 状	◆ 初期症状は、口唇のしびれや味覚異常、後頭部のこわばり等 ◆ 症状が進行すると、開口障害や嚥下困難、全身を弓なりに反る姿勢、痙攣が出現する 	◆ 肺炎型 肺炎を主徴とした全身の倦怠感、筋肉痛、発熱、咳、喀痰等 ◆ ポンティアック熱型 発熱、全身倦怠感、悪寒、頭痛等で肺炎はみられない	◆ 初期症状は、発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、結膜充血等 ◆ 風邪症状のみの軽症から、黄疸・出血・腎不全を伴う重症例まで幅広い症状を示す 
対 策	◆ がれきや釘などで怪我をしたり、傷口に土がついた場合には、傷口をよく洗い、医師の診察を受けましょう ◆ 作業に従事する際は、長袖・長ズボン・手袋・厚底の靴を着用しましょう 	◆ 冷却塔等の設備や器具は定期的に点検・清掃を行い、又メリが発生しないようにしましょう ◆ 粉塵や水しぶきが発生する可能性のある作業に従事する際は、マスクを着用しましょう 	◆ 作業に従事する際は、厚底の長靴や厚手の手袋を着用しましょう ◆ 作業後は、手洗い・着替え・入浴をしましょう ◆ 屋内外に棲息しているネズミが感染源となることもあるため、注意しましょう 

【避難所や災害現場など長時間屋外での作業に注意を要する感染症】

感 染 症	蚊媒介感染症 (日本脳炎など)	ダニ媒介感染症 (つつが虫病など)
概 要	◆ 病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症であり、ヒトからヒトへの感染はない ◆ 国内感染の可能性のある主な蚊媒介感染症は、日本脳炎であり、デング熱やマラリア等は海外からの輸入例が主となっている ◆ 日本脳炎は、ワクチン接種が予防に有効だが、その他蚊媒介感染症には有効なワクチンがないため、「蚊を発生させない」「蚊に刺されない」ことが重要である ◆ 避難所などのゴミ集積場や水田、池、沼などの水たまりなどでは、蚊が発生しやすくなるため、注意が必要である	◆ 病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症であり、ヒトからヒトへの感染はない ◆ 主なダニ媒介感染症としては、「日本紅斑熱」や「つつが虫病」、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」等がある ◆ 林や草むらで感染することが多く、ダニの活動が活発である春～初夏と秋～初冬に感染することが多い 
症 状	◆ 発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、関節痛、発疹等の症状が主であり、消化器症状（下痢・嘔吐等）を示すこともある ◆ 重症例の場合、出血傾向やショック症状、神経症状等を起こすこともある	◆ 発熱、発疹、刺し口、頭痛、悪寒、全身倦怠感等の症状を示す ◆ 痂皮を伴う典型的な刺し口が特徴であるが、刺し口がない事例もある
対 策	【蚊の発生を抑える】 ◆ 蚊は、卵から成虫になるまでの期間を水の中で過ごすため、水が溜まるような環境（放置されたブルーシートや古タイヤ・空き缶・ペットボトルに溜まった水等）を除去しましょう ◆ 蚊の成虫は、吸血後にはやぶや草むらで休む性質があるため、定期的に草刈りをしましょう 	【ダニに刺された場合】 ◆ 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科等）で処置（ダニの除去・洗浄等）をしてもらいましょう ◆ ダニに刺された後、数週間程度は体調変化に留意し、発熱等の症状がみられた場合は医療機関を受診しましょう 
	【蚊媒介感染症・ダニ媒介感染症共通】 ◆ 肌の露出を少なくしましょう ・長袖・長ズボンを着用しましょう ・足を完全に覆う靴を履き、サンダルなどは避けましょう ◆ シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中にいれましょう ◆ 帽子・手袋を着用し、首にはタオルを巻きましょう ◆ マダニを目視で確認しやすくするため、明るい色の服を選びましょう ◆ 虫よけ剤を使用しましょう 	